

新収蔵史料展

絵図に見る金沢城と江戸藩邸

近世史料館では、広く藩政時代の史料を収集・保存し、利用に供しております。本展示では、新たに収集した史料の中から、金沢城や江戸藩邸に関わる絵図を中心に紹介します。

1. 加賀藩江戸上屋敷絵図 (090-1507-2)

この絵図には「梅の御殿」の貼紙があり、享和2年(1802)ころの様子を描いた絵図と推定される。梅の御殿は、加賀藩10代藩主前田重教夫人の住まいとして、享和2年に江戸上屋敷内に建てられたものである。門・塀・櫓などが立体的に描かれており、この絵図の特徴となっている。

2. 加賀藩江戸上屋敷御殿平面図 (090-1500)

江戸上屋敷の御殿は、藩主や重臣らの応接や政務のための表御殿と、藩主とその家族、奥女中らの居住である奥御殿からなっており、この絵図は、表御殿部分を描いた絵図である。

3. 東邸沿革図譜 (16.18-128)

富田景周著、文政6年(1823)。加賀藩の江戸藩邸であった辰口邸・筋違邸・本郷邸・平尾邸などの沿革を記したものである。

4. 金沢江戸道中絵図 (090-1467)

当史料は、天保10年(1839)から翌11年にかけて作成されたものである。金沢を出発し、北国街道を通過して江戸まで、さらに江戸から東海道を通過して金沢までの街道周辺の様子を描いた道中絵図である。

5. 金沢上方道中図 (090-1362-1)

堤町三ヶ屋五郎兵衛版、元禄15年(1702)刊。金沢から京・大坂など、上方方面の道中図で、主要宿場間の駄賃も記されている。

6. 金沢城図 (090-1516)

作成年代は不詳であるが、当館蔵の寛文8年(1668)「加賀国金沢之絵図」(16.60-86)の金沢城部分と同じような描かれ方をしており、幕府提出の寛文図作成に関わる絵図と推測される。

7. 金沢城絵図 (090-1343-26)

石垣や塀を黒太実線で強調し、城内の縄張りを強調する全域絵図を縄張図と呼んでいるが、本図もその一つである。

8. 金沢城絵図 (090-1536)

藩政後期の金沢城内の建物配置を描いた作事方の藩用図の写しと思われる。特に蓮池庭の景観が詳しく描いているのが特徴となっている。本図の二ノ丸御殿に、能舞台が2か所描かれていることから、文化7年(1810)再建後の金沢城の景観を描いた絵図である。

9. 金沢城二之丸御殿平面図 (090-1519)

二ノ丸御殿は、宝暦9年(1759)・文化5年(1808)の大火で罹災し、その度に再建されたが、この絵図は、文化5年の大火以後に再建された御殿を描いた絵図である。

10. 御城焼失記録四種 (16.18-7)

宝暦9年(1759)・文化5年(1808)の金沢城焼失一件を記したものである。

11. 御殿向焼失ニ付冥加銀請取 (33.05-1)

12. 御殿向御焼失ニ付冥加銀請取証文 (090-1067-7)

御殿再建に対し広く領民から献金があり、これらの史料は文化5年(1808)と文化9年の御算用場からの冥加銀請取状である。

13. 二之御丸御殿裏御式台絵図 (090-1507-1)

裏式台は、二ノ丸広式の裏口で、切手門の内にあり、本図は20分の1で描かれている。

14. 竹沢御殿絵図 (090-1458-1)

竹沢御殿は、12代藩主前田斉広の隠居所で、今の兼六園内にあった。文政5年(1822)に斉広は隠居し、竹沢御殿に移るが、御殿が落成したのは翌6年3月である。

15. 竹沢御殿絵図(部分) (090-1458-2)

竹沢御殿の能舞台付近の間取図であるが、各部屋のふすま絵の画題と佐々木泉景や梅田九栄など藩の御抱絵師名が記されている。

16. 竹沢御殿絵図 (090-1517)

竹沢御殿絵図の横敷地内に「学校」と記載がある。竹沢御殿を建築する以前、その場所には藩校があり、建築にあたり藩校が敷地の東隅へ移り、さらに文政5年(1822)に堂形前へと移動するが、その過程の一端を確認することが出来る絵図である。

展示期間：平成28年12月20日(火)から平成29年1月29日(日)